

PCR 法を用いたファイトプラズマの検出と高知県における利用

矢野和孝・竹内繁治

Utilization of a Polymerase Chain Reaction Method to detect Phytoplasma in Kochi Prefecture

Kazutaka YANO and Shigeharu TAKEUCHI

要 約

1999 年以降、高知県内で栽培されているスターチス、ナス、ネギおよびデルフィニウムに黄化、萎縮、叢生などの症状が発生し、ファイトプラズマによる病害の発生が疑われたので、PCR 法によるその検出を実施した。検出は Namba *et al.* (1993) が報告した方法に準じ、*Mollicutes* 綱に特異的なユニバーサルプライマーセットを用いた PCR を実施後、その PCR 産物を鋳型としてファイトプラズマに特異的なプライマーを用いた nested PCR を実施した。その結果、罹病株では 750bp 付近にバンドが見られたが、健全株では見られなかったことから、ファイトプラズマによる病害であると考えられた。また、同様な方法で、スターチス栽培圃場周辺から採集したヒメフタテンヨコバイや雑草からもファイトプラズマが検出された。以上の結果から、本法はファイトプラズマ病害の診断、媒介虫の保毒調査、雑草の汚染調査に有効であると考えられた。

キーワード ファイトプラズマ, PCR 法, スターチス, ネギ, ナス, デルフィニウム, ヒメフタテンヨコバイ, 雑草